

第4回第7次福島県総合教育計画策定に関する懇談会 議事録

日 時 令和2年12月24日（木）
午後1時30分～午後3時30分

場 所 杉妻会館 3階 百合

福島県教育庁教育総務課

1 出席者

(1) 第7次福島県総合教育計画策定に関する懇談会委員 計11名

青砥和希委員、内田広之委員、小野広司委員、黒川佳子委員、小檜山宗浩委員、齋藤雄一郎委員、佐藤房枝委員、高瀬芳子委員、丹野香須美委員、伴場賢一委員、伏見珠美委員

(2) 福島県 計22名

教育委員会教育長、政策監、教育次長、県立高校改革監、庁参事、私学・法人課長、企画調整課長、生涯学習課長、教育総務課長、財務課長、施設財産室長、職員課長、福利課長、文化財課長、義務教育課長、高校教育課長、県立高校改革室主幹、特別支援教育課長、健康教育課長
教育総務課企画主幹兼副課長、他3名

2 内容

(1) 協議

- ①今後目指すべき教育の姿修正案について
- ②今後考えていくべき教育施策案について
- ③その他

3 発言者・発言内容

次のとおり

事務局 (田母神企画主幹)	<p>－開 会－</p> <p>開会に先立ちまして、御連絡いたします。</p> <p>本日は、常時換気ということで窓を開けさせていただいた状態になっております。寒い場合には、事務局で対応させていただきますので、手を挙げる等お知らせください。また、会場の人数制限については、傍聴、マスコミ各社にも御協力いただいております。ありがとうございます。</p> <p>次に、定足数の確認です。本日は14名中現在11名御出席いただいております、本懇談会は有効に成立しておりますことを御報告いたします。</p> <p>それでは、ただ今から「第4回第7次福島県総合教育計画策定に関する懇談会」を開会いたします。</p> <p>本日、進行を担当します教育総務課の田母神と申します。よろしく願いいたします。</p>
事務局 内田座長	<p>－報 告－</p> <p>本懇談会の議長は、設置要綱第5条により、座長となっております。ここからの進行につきまして、内田座長、よろしく願いいたします。</p> <p>座長の内田です。どうかよろしく願いいたします。</p> <p>今回4回目ということで、3回までの議論を通し、現状と課題、目指すべき教育の姿について皆様から色々な御意見をいただいております。</p> <p>本日は、これまでの議論を踏まえまして、「目指すべき教育の姿」についての修正案を事務局から説明いただき、更に教育施策の検討について様々な視点から御意見をいただければと考えております。</p> <p>実り多い懇談会となるよう、委員の皆様には、積極的に御協議いただきますよう、よろしく願いいたします。</p>
教育総務課長	<p>はじめに、事務局より報告をお願いします。</p> <p>事務局より2点報告させていただきます。</p> <p>まず、資料1を御覧いただければと思います。</p> <p>前回お知らせしました高校生ワークショップについてですが、今後実施する予定でおります。その関連で、高校生より提案書を募集したところ、88点の応募をいただきました。その提案内容を紹介させていただきます。</p> <p>1についてですが、今後必要になる資質・能力の観点から、プレゼンテーションやグループ学習に関すること、自己決定の場を増やすという観点から、生徒による行事運営や異学年との交流といった意見をいただきました。中ほどにあります、他校との交流や、地域との交流についての意見もいただいております。</p> <p>2の学力に関しては、英語力の向上や幼少時からの学習習慣化により苦手意識を持たせないといった意見をいただきました。</p> <p>裏面をお捲りいただきまして、3のICTの活用に関する意見もいただいております。</p> <p>さらに4として、他校の授業を受けて単位認定をすることや、震災及び原発事故の伝承、LGBTや障がい者への理解等の意見をいただいております。</p> <p>なお、88点の提案書につきましては、青砥委員、黒川委員、伴場委員の3名に御審査いただきまして、この中から12校選出していただいております、明日高校生ワークショップをオンラインにて開催する予定としております。この模様につきまして</p>

ては、後日懇談会委員の皆様には YouTube にて配信させていただき予定ですので、是非御覧いただければと考えております。

次に、資料 2 を御覧いただければと思います。

教育内容に関して県政世論調査を実施させていただきましたので、その結果を御説明いたします。

1 ページを御覧ください。世論調査の対象者ですが、2. (2) (3) に記載のとおり、満 15 歳以上の男女 1,300 人を対象とし、調査期間は (7) のとおり令和 2 年 7 月 21 日～8 月 4 日となっております。(8) の回収結果は、有効回収数が 838、有効回収率が 64.5 % となっております。

9 ページを御覧ください。1 問目として「福島県の教育に対する評価」を聞いております。「十分実践されている」と「どちらかといえば実践されている」を合わせた「実践されている」の割合が多かった項目として、〈サ 学校の安全性〉、〈エ すこやかな体を育む教育〉、〈ア 基礎的な学力を定着を測る教育〉、〈ウ 豊かな心を育む教育〉、〈シ 学校と家庭・地域との連携〉等が高くなっております。

一方で、「実践されていない」と「どちらかといえば実践されていない」を合わせた「実践されていない」の割合が多い項目としましては、〈コ 不登校やいじめ、経済的な困難を抱えるなど多様な児童生徒への対応〉、〈ケ 教師の働き方改革〉、〈カ 情報リテラシーや情報モラルに関する教育〉、〈オ ICT を活用した教育〉、〈ク 特色ある学校づくり〉、〈ソ 障がいのある人もない人も「地域で共に学ぶ」教育〉等が挙げられています。

3 1 ページを御覧ください。2 問目といたしまして「重要だと思える教育施策」について聞いております。「基礎的な学力の定着」、「豊かな心を育む教育」、「学校の安全性」、「意欲や熱意のある教職員の確保」等が重要な施策であるとして、上位に並んでおります。

3 5 ページを御覧ください。3 問目といたしまして「今後取り入れていくべき学び方」について聞いております。回答の多かった項目といたしましては、「教員、専門スタッフ、地域ボランティア等を含めて、子どもの特性にあわせてきめ細かな指導を行う体制の整備」が 36.4 %、「グループ学習等により意見交換をしたり、年齢や障がいの有無を越えて交流したりする機会の充実」が 16.2 %、「プレゼンテーションや論文をまとめること等により、自分の考えを発表する機会の充実」が 11.2 % の順となっている状況です。報告は以上です。

内田座長

高瀬課長、御説明ありがとうございました。

今、高校生ワークショップの提案内容と、県政世論調査の結果について報告がありました。委員の皆様から何か御質問等はありませんか。

伴場委員

県政世論調査は見所がありますが、単品では比較対象にならないので、他県の同様の調査事例や全国平均との比較が参考にならないか、資料があればお願いしたい。

内田座長

今の件について、調査項目を作成する際に、全国的なデータと比較して作っていたのでしょうか。

教育総務課長

県政世論調査は、県民にのみ福島県が聞くという形ですので、他県との比較は難しい状況です。今年度は実施されませんでした。全国学力・学習状況調査であれば、全国と福島県との比較も可能ですので、必要であれば提供できるかと思っております。

内田座長

県独自の調査ということで、全国学調で比較できる類似の調査などあると思いますので、今後伴場委員の御意見を踏まえながら対応をお願いします。

他の委員から、他に何かございますでしょうか。

(質問、意見なし)

それでは、資料1、資料2に基づく報告は以上とさせていただきます。

次に、協議に移りたいと思います。本日の議題は2点ございまして、「今後目指すべき教育の姿修正案」と、「具体的な施策」について議論を深めてまいりたいと思います。前半・後半に分けまして、協議を進めてまいりたいと思います。

まず、(1) 今後目指すべき教育の姿修正案について、事務局より資料について説明をお願いいたします。

資料3を御覧ください。

前回いただいた御意見を踏まえ、庁内関係課と意見交換をいたしまして、改めて内容を整理させていただきました。主な修正点について御説明いたします。

1 ページを御覧ください。全国的な状況のところに「大規模自然災害の多発」を追加いたしました。

その下にある「東日本からの復興・創生の過程を振り返って」の欄ですが、前回「ふくしまらしさ」とは何かについて、かなり議論いただきました。後ほど具体的に記載させていただいておりますが、そこにつながるように追加いたしました。

具体的には、1つめのポツに、レジリエンスや助け合う精神、県内外のつながり、対話と協働の文化、新しい産業が創出されてきているということ、2つめのポツに、震災で様々な教育課題が生まれたが、それを克服するため先端的な教育活動も生まれてきたことを記載いたしました。

続きまして、「A I の進化や感染症対策の中で見えてきた学校の意義」の欄を、前回テクノロジーの進化によって、学校の役割がどうなるかとの御指摘がありましたので追加いたしました。臨時休業により学力や体力の低下、精神的な影響、共働き家庭の子どもの居場所の不足等様々な懸念が生じました。その中から、学力だけでなく、人と人のつながりやセーフティネット的な役割が、多くの方に認識されたと思います。こうしたことを踏まえたときに、一方通行の授業は代替できってしまうので、体験やコミュニケーション、子どもたちに伴走して個性を引き出す教師の存在が強みであり、このような学校の強みを最大限発揮するために、学びや学校の在り方を変革していくことを記載いたしました。

2 ページを御覧ください。SWOT分析につきましては、抜粋したものを前回お示ししましたが、様々課題をいただきましたので、全体版を入れさせていただきました。

3 ページを御覧ください。育成したい人間像ですが、前回の懇談会で、色々な人達と議論ができるということ、対話と協働が重要であるとの御意見をいただいておりますので、それらを追加した上で改めて、「急激な社会の変化の中で、自分の人生を切り拓くたくましさを持つとともに、多様な個性を生かし、対話と協働を通して、社会や地域を創造することができる人」と整理させていただきました。

また、育む力については、育成したい人間像に連動するように、自己、他者、社会と向き合う上で必要となる力という3つの観点から整理いたしました。

1つ目は、自己と向き合うという観点から整理いたしまして、前回いただいた御意見を踏まえ、自己決定といった内容を追加いたしました。2つ目は、他者と向き合うという観点から整理いたしまして、コミュニケーションや読解力、他者との違いを乗り越えて協働するという内容を追加いたしました。3つ目は、社会と向き合うという観点から整理いたしまして、前例にとらわれず挑戦し、新たな価値、産業、文化を創造していく力を追加いたしました。

最後に、「ふくしまならでは」の教育についてですが、右側の欄に「ふくしまらしさ」とは何かを新たに記載いたしました。課題先進県だからこそその課題解決学習、復興の過程で生まれた強みを福島の財産として共有すること、はま、なか、あいづを代表する多様性が交流し合うこと等を追加いたしました。

こうした「ふくしまらしさ」を生かして、グローバルとローカル、デジタルとアナログ、学校と地域、総ぐるみによって多様性を力に変える教育を行っていくこと、福島で学び、福島に誇りをもつことができる教育、「ふくしまを生きる」教育とさせていただきますが、そうしたものが「ふくしまならでは」の教育なのではないかと思ひ整理させていただきました。

なお、前回記載の今後検討するとしていました教育施策については、本資料と切り離し、資料4として別途整理させていただきました。説明は以上です。

ありがとうございました。

前回の議論を踏まえまして、目指すべき教育の姿について、色々なキーワードを入れていただいています。前回はICTや、心のケア、自己コントロール力が議論されたかと思ひます。「ふくしまならでは」も大分やりとりがあったかと思ひます。事務局が整理されたものを御覧になられて、キーワードとしてもっと追加した方が良いものや、前回の発言の趣旨が違っていると、こう修正してほしい等の観点で、自由に御意見をいただきたいと思ひます。次の議題で、具体的な施策について議論を行います。多少前後して施策を念頭としたものでも結構です。どこからでも結構ですので、御自由に議論をお願いいたします。

Bridge for Fukushimaの伴場です。前回色々申し上げていたことを、すごく噛み砕いて、かつ緻密に資料に整理いただきありがとうございます。感想的なもの、つい最近の経験も含めて共有させていただきたいと思ひます。

今の時期、県立高校の先生も推薦入試が一段落して、共通テストに向けてのタイミングだと思います。私たちの団体で関係している学生も、かなりの数が推薦入試で受験をします。今まで私たちの団体で失敗してきたことで積み上げてきたことは、自分の強みを理解させることでした。プロジェクトをやることには色々な意味合いがあると思ひますが、私たちが8年位の結果から向き合った結論から言うと、プロジェクトをやったことではなく、自分の強みがどこにあるか理解させることが1番提供できることだと思います。1、2年生で強みを知っておくと、推薦入試のためだけにやっている訳ではないのですが、自分を語る時に、熱を持った言葉で相手に向かっていける武器になると思ひます。偏差値で15位足りない子が、推薦入試で私立大学に合格しましたが、それは自分がやってきたことと、自分の強みを整理して話すことができたからだと思います。毎年いる東大の推薦入試の子も全く同じアプローチです。素地がある子が、自分が何をしたいのか、どこに強みがあるのか、だから大学で何をしたいのか、これができる教育が必要ではないか。1番上に入っていると思ひますが、「自分の強みを理解し使いこなす」が入っているといいと思ひます。

もう1つ言うと、問いの力をつけるということも、徹底的に取り組んでいるつもりです。他の人と違っていいから問いを作りなさいと。そういう言葉が入ってきても良いかと思ひました。

ありがとうございます。非常に具体的な御提言をありがとうございます。

前回は黒川委員から、デコボコがあっても自分の得意な分野、興味ある分野を探究する子どもたちの思いがあって、あさか開成高校での取組についてお話がありま

内田座長

伴場委員

内田座長

黒川委員

した。伴場委員からは、自己コントロール力というお話がありましたが、今のお話で具体的になったかと思います。

自分の強みを伸ばすこと、個性を伸ばすことについて、実践の中からお考えのことについて、黒川委員何かございませんか。突然で申し訳ありません。

次の教育施策と関係するかと思いますが、良さを伸ばす話ではないかもしれませんが、記録が残るので言いにくいのですが、先日ある進学実績の高い学校の校長と話をしましたが、その学校ではたくさん宿題を出し、生徒も教師もそれに追われている。ここに問題があるのは分かっているが変えられない。バランスが良いというのは聞こえが良いが、型にはめた成長をさせようとするのが見られる。施策にも関係するが、バランスがとれていることも必要だが、これから新しいものを創りだすには、突出したものも必要だと思う。均一、均等に成長させることが学校には残っていて、それを突破する強いメッセージが必要だと思う。

宿題を出し、型にはめ、均一に成長させることに課題があると分かっているのに、それを突破できないのは、一つは忙しすぎることで、新しいことを見出す時間がないからだ。言いにくいですが、大学合格という意味での今までの成果を、個性を生かし突出したものを認め、自由な外部での活動など全く違う形に変えていこうと思ったときに、私が教員の立場で考えると、大学進学という結果が出なかったら怖いと思うからではないかと思う。それを社会が許容してもらえようようなメッセージが必要ではないかと思う。均一な育て方では、伴場委員のお話のように、自分が何をしたいのか、これは福島県立医大の面接でも聞かれますが、そうしたことを伝える子が育ちにくい。これまでと難関大学合格者数が同じという結果につながる。多様な個性、強みを伸ばす教育が必要であることを、強く学校や社会にメッセージとして出してほしいと思う。

内田座長

大変具体的なお話をありがとうございました。

確かに社会に対して呼びかけていくメッセージも、この計画の中には入れられるかと思いますが。安易にとってはなんです、すぐに成果の出る進学実績に向けての指導が行いがちなので、これからの時代はそうではないんだ、客観的な数字が一時下がる事があるかもしれませんが、別の価値観を出していくことも必要だと思いました。

他の委員から何かございますでしょうか。チャレンジや、失敗から学ぶという活動では、青砥委員は関係深いと思うのですが、突然で恐縮ですがいかがでしょうか。

青砥委員

一般社団法人未来の準備室の青砥です。

先程の黒川委員のお話を受けて考えたことです。進学実績が、多分に教員の評価、学校の評価になっていると理解しているが、違うのであれば、人事評価の仕組みなど次回客観的な資料などを準備していただきたいと思います。進学先がどこになるか、私もサポートする機会があるので、高校生活の中で修正案にあるような主体的、協働的な能力などが伸びていく様子を見ているので、教員や地域の役割は大きいと感じています。一方で、私自身もそうですが、関われる時間、与えられる情報量など、素晴らしい先生が担任だからといって偏差値が20～30一気に上がる訳ではない。最終的にどの大学に合格したかは、色々な要素が関わっている、それが人事評価の指標として使われている、正式ではないにせよ人事評価の文化として、個人の資質能力を裏付けるものだと認知されている内部の状況があるならば、この修正案に挙げられている能力を伸ばす組織として適正なのか疑問に思いました。

私は、県南地域の光南高校、白河実業高校、白河旭高校に関わっていますが、福

大に推薦で合格した生徒がそれぞれ1名以上います。たまたまカフェ EMANON の事業に関係したとか、国立那須甲子自然の家のプログラムに参加したとか、熱意を持ってプレゼンテーション、小論文や面接で、自分が大学で研究したいことを伝えることができた、と見えています。県政世論調査でも、教員だけでなく色々な方と関わりを持った個別最適な子どもへの支援が必要だ、と多くの県民から意見があったと拝見しましたが、それと教員の人事評価が目指している姿、既存の仕組みや文化が一致していないのではないかと感じるようです。

今月あったトピックスで紹介したいことをお話しますが、先週高校生社会貢献活動コンテストを見学しましたが、普通科高校から特別支援学校まで、あらゆる高校の、あらゆる高校生が、あらゆる形の社会貢献活動をしているところが、一堂に会する場があることが素晴らしいと思いました。前段の私の話と関連付けると、〇〇大学に〇名合格したというのは、指導する側の外発的な要因、わかりやすい反面外部から与えられている動機付けなのかと思いました。社会貢献活動の場で、高校の先生方の相互のコミュニケーションの場がありましたが、よりよい経験を生徒のためにという姿は、より内発的な要因に近いのではないかと感じて、生徒の発表の場でしたが、教員の相互のコミュニケーションの場として良かったと振り返っています。以上です。

内田座長

ありがとうございます。大変具体的な事例を交えてありがとうございました。

特に、人事評価とか、評価するときの文化は大事な視点かもしれないので、紹介できる現状などあれば、お願いしたいと思います。先生たちも実際に人事評価をする中で、評価シートに記入して、校長と面談するというプロセスを経ると思います。現場の先生方がいらっしゃいますので、人事評価の中で、客観的な進路実績だけではなく、課題探究的なものなど目に見えにくいですが、大事な活動について、どのように人事面談しているかについて、そして、評価者の目線としてどんな実態があるか、もし紹介いただけるのであればお願いしたいのですが。

伏見委員

渡利小学校の伏見でございます。

進路実績の話は、小学校を預かる者としては、中学校、高校に進むと、子どもたちが現実に直面するのだと思って聞いていました。

人事評価については、小学校は今お話しされている高校での進路実績の内容とは違うと思ひまして、第一にその年度内に自分の力量をどう伸ばすのかを評価するものなので、手立てに数値を挙げることもありますが、文章、数値に表れないところが大事だと私は思います。校長の立場から言うと、日々の先生方の授業の様子、子どもたちへの関わり方の様子を観察するしかないと思ひ、先生方と関わっています。

校長先生として、そのように周知しているということですね。

内田座長

伏見委員

もう一つ聞いていて思うのは、小学校では子どもたちに夢や目標を持って中学校へ進学し、やがては大人として頑張るんだよと話しています。子どもたちのキャリア教育につながるということで、そうした夢や目標を持って中学校に進学すると、中学校では進学が控えているので、小学校では通わなかった塾に通うようになった、という話をよく聞きます。小学校の時に、どんな夢や目標を持つかが、将来につながるのではないかと最近考えます。

本校の初任者と話をする中で、初任者研修での福大の前川先生の講演の内容について、親世代が子どもの頃は、勉強すれば、いい大学に入り、いい職業に就くことができる、将来はどうにかなるとして生きてきた。しかし、今の子どもたちは、社会がコロナもあって先が分からないところで生きているので、学ぶことは社会に出

	<p>て安定した生活をするため、ということが通じないと思う。何のために学ぶのかという1番の動機付けは、自分のためではなく、学んで大人になることは、他の人が幸せになるためだと話していかないと、自分のためだけに進学するでは通じなくなってしまう、と話されていたと聞きました。そう考えていかないと、今の子どもたちが成長する中で、子どもたちも生きづらくなっていくのかと考えました。そこで思ったのが、若い先生方に、学ぶことについて、子どもたちを前にしてどう学ばせていくかということについて、研修など考える機会を与えることが大事なのではないかと考えたところです。</p>
<p>内田座長</p>	<p>貴重な御意見ありがとうございます。</p> <p>評価の話から始まり、先生方がそういう目差しで子どもたちを見つめ、形の上での人事評価というよりも、日頃の教育活動から子どもたちの成長を期待しながら励んでおられるということだと思います。先程の資料でいうと、育成したい人間像について、社会や地域を創造できる人、他の人や社会のために自分がどう貢献していくかということが教育上大事ではないか、というお話だったと思います。育成したい人間像にあるキーワードと結びついているお話かと思えます。</p> <p>今までのお話に関連してでも構いませんし、別の観点でも構いませんが、この今後目指すべき教育の姿に関しまして、他の委員より御意見はございませんでしょうか。小檜山委員、お願いします。</p>
<p>小檜山委員</p>	<p>今後目指すべき姿の育む力の2つ目の丸の最後のところですが、「他者との違いを乗り越えて」とあるが、特別支援教育の視点からすると、違いは乗り越えなければならぬのかと思う。もう少し、共に認め合う、社会の一員として認め合う、誰もが能力を発揮し、協働することができる力など、私自身も違いを乗り越えなければと思う人と出会ったこともあります。乗り越えるは「困難を乗り越える」などありますが、障がいのある人たちを乗り越えなければならぬのか、認めるくらいで良いのではないかと思います。</p>
<p>内田座長</p>	<p>ありがとうございました。御指摘を踏まえ、修文となるかと思えます。</p> <p>次の議題もご置きます。目指すべき教育の姿についても、行ったり来たりがあり、戻ることあるかと思えますが、ここで2つ目の議題に進みまして、今後考えていくべき教育施策案に関して、事務局より説明願います。</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>資料4を御覧ください。今後考えていくべき教育施策案につきましては、前回までの様々な御意見などを踏まえまして、事務局でグルーピングを行いながら今回資料4としてまとめさせていただきました。柱立てを5本とさせていただいています。</p> <p>1つ目は、「学びの変革」によって学力をはじめとした資質・能力を確実に育成するという観点から、オンライン・対面の良さの双方を取り入れたICT活用などによる学びの変革ですとか、学校段階を見通した学力向上などを挙げさせていただいています。</p> <p>2つ目といたしまして、「学校の在り方の変革」によって教師の力、学校の力を最大化するという観点から、働き方改革ですとか、教師の役割の明確化、教員の養成・採用・研修の在り方について記載させていただいています。</p> <p>3つ目といたしまして、学びのセーフティネットと個性を伸ばす教育によって多様性を力に変える土壌をつくるということで、特別支援教育ですとか、不登校生に対する支援等を記載させていただいています。</p> <p>4つ目の視点といたしまして、福島で学び、福島に誇りをもつことができる「ふくしまを生きる」教育を推進するというところで、学校と地域の連携・協働、地域や</p>

復興の課題を生かした探究的な学び、震災の記憶の継承を記載させていただいています。

5つ目といたしまして、人生100年時代を見通した多様な学びの場をつくるということで、生涯に渡る健康マネジメント能力や学び続ける力の育成ですとか、図書館等々の活用について記載させていただいています。

なお、本日御欠席の渡部副座長からも、付け加えるべきものとして御意見をいただいております。資料として付けさせていただいています。御欠席をされた方からの意見と、これから皆様からいただきます御意見を踏まえまして、反映してまいりたいと思います。以上でございます。

高瀬課長、ありがとうございます。

今御説明いただきました教育施策案について、議論いただきたいのですが、先程お伝え忘れてしまったのですが、目指すべき教育の姿について議論いただきましたが、前回までの意見を含め御意見をいただけたと思います。もし、今日だいたい目指すべき姿について他に御意見がなければ、今回をもって目指すべき教育の姿についての深い議論は一旦終える形として、今後、施策について具体的な議論を進めていきたいと思っています。したがって、施策の議論を進めていく上で、戻って、前後しても結構ですので、御意見をいただければと思います。かなり個別具体的な施策について、事務局より案を作っておりますので、これらに関してもっと踏み込むべきではないか、別の視点でこういった施策があるのではないか、など御自由に御提案いただければと思います。よろしく願いいたします。

高瀬委員、お願いいたします。

これまでの意見の整理の中で、私のS S W（スクールソーシャルワーカー）としての立場で意図する意見を取り入れていただきありがとうございます。教育の姿と教育施策で、若干重なると思うのですが、御了承いただきたいと思います。

目指すべき教育の姿で、リーディングスキルが低い子どもが存在している、自分を表現する力が弱い生徒が多い、心のケアが必要な子どもが存在している、不登校生徒も増加している、とあります。幼児期についてですが、絵本の読み聞かせは、想像力を高めていくことに効果がありますが、その効果を理解していない保護者が多く、浸透していない。読み込む力と、創造する力を育むためには、学校でも想像力を高める学習内容が取り入れられていますが、低学年からの更なる取組があれば良いと感じています。

資料2の、今後取り入れていく学び方で、教員、専門スタッフ、地域ボランティアなど子どもの特性に合わせたきめ細かい指導が多く求められています。発達障がいなど人との関わりができず、生きづらさを感じて不登校になっている生徒も増えてきています。今後の教育施策の中の学校の在り方改革で、教師の力、学校の力の最大化とあります。それぞれの子どもにどう対応していくのか求められていく中で、発達障がいの特性理解や他職種との連携など多様なニーズに応えられる、多様な教職員の体制の構築ができれば良いと思います。そのために、例として、教員の資質向上のための研修など、初任者研修や中間職研修の際に、療育機関での実習を義務化するなど、特性についてより学ぶ機会を増やしていけば良いのかと思っています。

これは市町村の課題だと思うので合わないと思うのですが、思春期に入っの生きづらさに対して、ソーシャルスキルトレーニング（S S T）をする機関が少ないのが現状です。S S Tを実施しながら生きづらさを緩和できるように、不登校軽減に向けた対策を実施していくことが必要だと思ひ、S S Tを実施できる機関がもつ

内田座長

高瀬委員

<p>内田座長</p>	<p>とできると良いと思います。</p> <p>貴重な御指摘ありがとうございます。</p> <p>子どもたちの中での発達障がいや心のケアなど、境界が難しくなっていると思います。特別支援のお子さんの割合も増えてきていますので、先生方の研修が大切だと思います。これも、計画の中の大きな柱になっていくと思います。</p> <p>高瀬委員のお話に関連してでもいいですし、別の視点でも構いませんが、他の委員からいかがでしょうか。小野委員、突然ですみませんが、よろしいですか。</p>
<p>小野委員</p>	<p>本日午前中に、小学校長会、中学校長会それぞれの、昨年度のSNSの実態調査について危機感を強めたということで、急遽県政記者クラブにリリースしているはずですが、その中ではかなり問題が内在していて、学校だけでは対処しきれなくなってきたいて、社会の皆さんも知ってくださというメッセージが出されています。情報リテラシーだけではなく、情報モラル教育をどうするか悩んでいらして、そこをどうしていくか。その施策は必要ですが、資料4ではどこに当てはまるか見えてきません。学校で求めているのは、「学校だけでは対処できないことが多々あって、一方で外部人材、昨年まで教育センターにいらした目黒先生や専門の会社の方に講演いただくと、すごくよく理解してくれる。先生方もスキルがついていかないのは当然でしょうし、法律上は家庭の責任となっても、親も技術についていけずに指導もできない。そうした中で、社会全体として問題意識を子どもたちに教えていく形をとっていかないと対応できない」という、なかばSOSのリリースでした。そこを本県としてどうするか。一定程度外部人材を送り出していくシステムを作る、しかも今年実施したからといって来年は別な課題が生じていることもある、座間の事件が起きている現状から、危機感を持った総合的な施策を展開していく時期だと聞きましたので、何らかのメッセージを出すべきだと思う。</p> <p>もう1つは、全国の集まりなどで1番話題にしやすいのはスポーツのこと。本県は、何年経っても突出した生徒がなかなか育たない、または途中で挫折してしまう。外部から来た生徒をうまく育てたバドミントンの桃田さんや、(地元出身では)先日の陸上の相澤君のようにうまく育つこともあり、素質のある子どもたちはもっとたくさんいるはずなので、そこをうまく育てる教育は何か考えたことがあります。これは学校だけの問題ではなく、地域のサポートがないと無理なことだと思いますが、そこが本県は弱いと思います。そこをうまくもっていく施策はないのかと。一方で、スポーツが得意で、スポーツでやっていくという子どもが一生懸命時間を費やし、途中で挫折したときにサポートできるシステムが本県にあれば、大きな強みになると思っています。</p>
<p>内田座長</p>	<p>ありがとうございました。外部人材の活用については、お話の2点ともつながっているかと思います。資料でいいますと、2.の学校の在り方に外部人材の活用があつて良いと思います。1.にオンラインがありますが、情報モラルへの外部人材の活用も重要な視点だと思うので、盛り込んでいけるかと思います。スポーツのお話も、なるほどと聞いておりました。</p>
<p>黒川委員</p>	<p>他の委員より何かございますか。黒川委員、どうぞ。</p> <p>あさか開成高校の黒川です。</p> <p>質的な内容も入っているのですが、1.の「学びの変革」によって学力をはじめとした資質・能力を確実に育成するとありますが、「学力をはじめとした」が分からなくて、先程の話に戻るのですが、学力とは何かの捉え直しがあるべきではないか。おそらく学力とは、これから変化の激しい社会の中で、課題を解決し、新し</p>

いものを創り出すもの全てが学力ではないか。テストができるだけが学力ではないことを、社会や学校、教員が捉え直しをしないと、いくらICTを使っても同じではないか、というのは言い過ぎかもしれないが、先に進みにくいのではないかと思うので、1.の部分がとても気になっています。

もう1つは、4.にある、学校と地域の連携・協働はそうだと思うが、私も地域に出てみると、素晴らしい大人がいることに気が付きます。子どもは、家族や教員としか触れずに育つが、地域には様々な素晴らしい大人がいて、そういった大人と接することで、小学校のキャリア教育の話にも戻ると思いますが、自分の目指すところを見出していけるのではないかと思う。ですから、地域に出て行き学ばなければならない、地域でこそ学ぶことがあり、そこと学校が結びついたときに本当の学力がつくのではないかと思うので、もっと強い表現でもいいと思う。

一旦議論が終わった目指すべき教育の姿にも関わるが、小檜山委員から違いについてのお話がありましたが、「違い」こそ新しいものを生み出すときに必要だと思うので、より肯定的なメッセージが伝わる表現でも良いと思います。以上です。

ありがとうございました。特に、学力についての定義は必要かもしれません。私も、事前打ち合わせで、目指すべき姿、人間像、福島県が取り組む姿があるが、解のない問いにどう向き合っていくか、その中で自分なりの答えを想像して、解決策を創り出していくとか、新学習指導要領の中のコンセプト、学ぶことの考え方の定義があってもいいと話してきました。伴場委員、どうぞ。

今の黒川委員のお話に関連して、1、2、4についてお話いたします。

以前にもかなりきつい話をしたと反省しつつ、もう一度改めて考えてみると、1.は本当に10年間この姿でいいのか、あえて聞きたいです。この話は、15年程前に、ケン・ロビンソンなどが言っていたことで、グローバルでは既に議論が済んでいることです。その先に進んでいこうというのが、今僕たちが対応すべき高校生だと思うので、もっと深掘りしても良いと思います。いきなり到達する道はないので、どう進めていくかが施策だと思います。

2.では、しっかりした指標をつくることだと思う。具体的な事例として、最近長野県で新しい学びの指標、中高共通のものをつくっています。この指標には、ふたば未来学園で作ったものが多く含まれていることが見受けられました。そう考えると、福島県も決して劣っている訳ではなく、先進事例にしても参考にすべきものがあつたということですし、その指標をきちんとつくることだと思います。

もう1つは、共通言語を先生とつくることだと思います。私たちが探究の授業の中で今やろうとしていることは、赤べこを気球に乗せて成層圏まで上げて写真を撮り、コロナ退散の儀式をするということです。これは高校生が行ったら面白いと思います。これをやるには、ITベンチャーの方、赤べこをつくる技術者など、色々な人が関わりますが、大人はサポートするだけです。こういったプロジェクトがあちこちで起きれば、福島は面白くなると思いますし、高校生の学びはもっと深くなると思います。簡単に言っていますが、航空法や、物理、回収のことも考えなければならないので、本当に深い学びがあつて、こういうプロジェクトができる福島にしたいと思っています。

さらに、先生方と話をして、探究学習の上で5教科を学ぶとどうなるかということ、歴史の先生の話では、あなたが信長だったら本能寺で自害しますか、生き延びますか、の問いが探究の授業の1つの形。これは私にはとても分かりやすく、歴史的な背景や生き延びたときの選択肢があつて、何年に本能寺の変が起きたと学ぶよ

内田座長

伴場委員

りも、本質的な学びだと思う。もしくは、信長が今生きていて、福島市の市長だったら、信長の考えの中でどんな施策をつくるのか考えるのが、探究的思考の授業になり、楽市楽座が何年と学ぶよりもこれを学んだ方が早いと思います。こちら辺が答えの1つになっていくと思います。高校生の探究のお話をしましたが、明らかに大学も変わっていて、このような考えの子が推薦で入っています。私たちは、そこを考えていかなければならないと思います。

最後に、4. は1. に関わりますが、小野委員がお話しされていましたが、福島でなぜスポーツ選手が出ないのか。なぜ福島の子どもは引っ込み思案なのか。その役割は、学校や教育なのか、地域の役割なのかわかりません。福島の子どもたちのいる座標を、データ以外の客観的な指標の中で、今の特徴を捉えながら、その性質を持って2030年、2040年を生きていくために、どんな力をつけさせるべきか、というところに指標をつくっていきたいと思います。

さらに福島の教育で言うと、昨日富岡町の教育長とお話ししました。富岡町では、小規模で、小中一貫校ですが、運動会を全部生徒に考えさせることにしたそうです。これはとても素晴らしいと思いました。自主性を担保し、大人たちと一緒に考えさせるのは、探究的な学びだと思います。福島では、2040年に向けて子どもの数が減っていく中で、エッジの効いた教育をやっていく機会と捉えることで、全く違う世界が見えてくると思いました。以上です。

ありがとうございます。大変示唆に富む内容でした。

私が所属する福島大学の学生も、大分伴場委員のところでお世話になって、育てていただいています。福島大学のことも紹介いたしますと、今、大学院をどうしていくか議論しております。その中で、福島の教育の強みは、課題探究的なものにあるのではないかと感じています。特に、震災以降、ふたば未来学園で丹野高校教育課長が取り組んでこられたことの蓄積もありますし、前回、青砥委員から富岡と三春をつなぐ実験的なお話もありましたし、高瀬委員の心のケアと絡めれば、福島大学も現場の教員に震災直後はノウハウがなかったもので、心理学の専門家が支援に入り、今は大分ノウハウが共有されてきたので、現場主導でできるようになっています。数多くの課題探究型の活動で生まれた経験が、本当に福島県内の教育の強みだと思っています。福島大学もそこに比重を置いていこうということで、今改革を進めています。福島大学と高校、小中学校、幼児教育まで一貫してつないでいければ良いと思って議論を進めています。

探究的な切り口で、たくさんのヒントをいただきましたが、まだ発言されていない委員の方もおられます。別の切り口でも全く構いません。齋藤委員、よろしいですか。

三和製作所の齋藤です。

今後考えていくべき教育施策案ですが、前回まで発言した内容、キーワードまで含めて盛り込まれていて、非常にいいと思っています。

先週地元の中学校で、職業講話として他の職業の方と中学生に対して話をしてきました。中学生から1番に出てきた質問は、何のために学ぶのか、でした。先程伏見委員からもお話がありましたが、大人がきちんと答えを用意できていないのではないかと感じました。今コロナの影響で、インターンが中止になったり、学生が会社に入りづらい状況ですが、模擬面接の形でオンラインで行ってみると、自分のことを自分の言葉で伝えられる人が少ないのが、なかなか難しいところです。今後ネットワーク越しやメールで人を説得し、自分の意見を説明し、仲間を増やし、プロ

内田座長

齋藤委員

プロジェクトをつくるという能力は、これから非常に大事になると考えられています。我々は、出身大学よりも、むしろ今までストレスの中で物事を達成してきたかを重視しており、実は大学に入るときの選抜方法まで類型化して面接をしていたりします。

先程の中学生の問いに対して、企業側がどう考えているかということ、仕事には3つのカテゴリーがあって、「やらなければならない仕事」と、学生から見て「やりたい仕事」と、学生が「できる仕事」です。この3つのうち、1番小さいエリアが学生が「できる仕事」で、社会経験も少ないので仕方ありません。なぜ学ぶのかについていえば、「できる仕事」の領域を増やして、自分の「やりたい仕事」と会社に入って「やらなければならない仕事」の集合のところが多くなるように勉強してください、そうすればあなたの強みになりますよ、と伝えています。今いい大学を出たといっても、推薦、推薦ですると抜けてくる人もいて、例えば工学部でも数学を選択しない子もいる。会社に入って重要なのは、ビッグデータの処理なので、数学の統計学が必要ですが、仕事をする上で共通のベースに立てないと脱落してしまう。最低でも、名前負けしないようにきちんと学んでほしい、と伝えています。

学校にも今海外からの留学生が入ってきていますが、この人たちは以外と幅広く、台湾、韓国、中国の人ですが、結構海外を転々として勉強してきた中で、経験したことをうまく会社の中で生かしています。日本の子が、今海外に出て行かなくなりつつあって、私もアメリカの大学にいましたが、日本からの学生が少なくなって困るとよく聞きました。これから間違いなくグローバルな世界になり、日本は人口が減っていきませんが、海外は人口爆発なので、日本の省エネの技術などが求められ、外に出て行くことが求められています、海外に仲間がいない、伝手がないのが問題で、大変になっています。

イノベーション・コースト構想で、福島県の浜通りで最先端の技術の集積や人の育成をしていますが、なかなか人材の供給がついていけないのが実情です。例えば、放射線測定では、かなり予算があるが使える人材がほとんどいない、毎年予算が余る事態はもったいないので、福島をきれいにするのは福島に住む人なのではないかということも含めて、今後第一原発をきれいにするまで50年位はかかるので、その50年間人材の供給を県内の学校からできないと、外部にパイをとられてしまうことになるので、こういったところをきちんと施策に入れてほしいと個人的には考えています。以上です。

内田座長

ありがとうございました。民間企業の鋭い視点で、特に印象的だったのは、できることを増やすこと、その比重を増やすことで強みに変えていくというところでした。先程の黒川委員の学力の定義ですとか、伴場委員の強みをどう作っていくかとかからめて、資料4では1.に盛り込んでいく必要があるかと感じておりました。外に出て行くことで自分の強みに変えていくことや、イノベーション・コースト構想の様々なプロジェクトが始まっていますが、やはり県内でそれを支えていく人材を育成するというのも重要だと思いましたので、4.に入っていくのかと思いました。

佐藤委員

他の御意見はいかがでしょうか。佐藤委員、いかがでしょうか。
本日懇談会に参加させていただくのは2回目になりますが、前回参加して思ったのは、教育は生まれてから墓場までだと思いますが、前は高校生の大学や職業選択の部分の話が多いかと感じました。私が家庭教育インストラクターとして活動し

ている中で、あまり高校生と接点がないので新鮮に聞いておりましたが、教育施策案を読んでいて、この年代ではこの施策、この年代ではこの施策が必要という区別が必要ではないかと思えます。これはどの年代で強化した方が良いのか、と考えながら見ていましたが、例えば3.に「高校の特色化・魅力化の推進等それぞれの子どもの強みを伸ばす教育の充実」とあり、先程強みを伸ばすというお話もありましたが、自分の強みを理解している子どもはどれ位いるのだろうか、わからない方がもしかすると多いのではないかと思いました。その前半部分に「高校の特色化・魅力化等」とありますが、心の強みは幼児期からの大人との関わりが蓄積されていないと難しいのではないかと感じました。お集まりのメンバーが高校生と接する方が多いからなのかと思いましたが、自分の強みは周りの大人が気付かせてあげないと分からないのではないかと、色々な体験をしないと気付かないのではないかと思いました。幼児期はこの施策やこの環境づくり、学童期はこの環境や周囲との関わり、中高ではこういう関わり、というように思いました。

1.の1番最初に、ICTがいきなり出てきているが、今時と言えば今時ですが、学力は何か、基本中の基本、根っこの部分をトップに持ってきてほしいと思いました。

学校と地域の連携・協働はありますが、家庭との関わりはどうかと考えたときに、3.に「家庭の経済的支援」と少しあるだけなので、保護者も交えて、子ども・学校・保護者・地域の部分、もっと保護者を巻き込まなければ全体像が機能しないのではないかと考えました。私も家庭教育に関わる立場から、家庭に関わる部分を盛り込んでほしいと思えます。

ありがとうございました。当然、家庭教育も大きな柱として盛り込むことになると思えますし、実際に作文の過程で、佐藤委員のアドバイスをいただくことになると思えます。

最初に御指摘ありました年代ごとの区分などもそのとおりでと思えますし、作文の過程ではいきなりICTではなく、先程の議論につながりますが、学力の根幹につながる話から始まるかと思えます。

自分の強みに関しても、周りの大人が気付かせることは大切ですし、青砥委員、伴場委員の学校以外の活動も含め、新しいふたば未来学園の取組などもそうですし、強みのエピソードや事例を引用しながら、セットにすることで抽象的な計画にならず、福島らしいものになるのではないかと思いました。

丹野委員、文化財の視点をもっと盛り込んだ方がと思えますが、いかがですか。文化財審議委員の丹野です。

提案のなかに文化財が入っていないのが残念です。文化財の話は一旦置いておきまして、今までのお話の中で、学力とは何か、が曖昧ではないかを感じながらお話を伺っておりました。学力について定義するには、何のために学ぶのか、もう一度考え直す必要があると思えます。私自身も学習塾を経営しておきまして、子どもにもなぜ学ぶのかよく聞かれますが、私は、学ぶ機会と能力があって恵まれているのだから、恵まれられない人の代わりに学んで、いつかその人たちが学ぶことができる社会に変えるために学ぶ、あなたのチャンスを無駄にしては駄目なんだ、と話しています。それは、学ぶということは人のため、社会のため、国のためにつながるということです。日本の場合は第二次世界大戦の反省から、戦前の国家権力に統制されてしまった全体主義があるので、国のため、社会のためという表現を避ける文化があるかと思えます。しかし、きちんと言葉を尽くして、真の意味で国のため、

内田座長

丹野委員

人のため、世界のために私たちは学ばなければならない、と子どもからお年寄りまで理解してもらえよう説明をし尽くす必要があると思います。その上で、学力は「これこれである」とすべきではないかと思いました。

教育の姿修正案で、他者との違いを乗り越えてとありましたが、違いがあるのは当たり前で、違いを理解し、違いを理由に排除や攻撃をしてはならないということをお話していかないといけないのではないのでしょうか。「相手のできないことを認め、そのできないことをできる他の人が行う社会があるのが福島である」とすることが、「福島に誇りをもつ」、「福島を生きる」ことだと思います。たとえ福島を出ることになっても、ふるさとに帰れば助けてくれる人がいる、そう考えられる社会であれば素晴らしいと思います。

文化財に関してのお話もさせていただきます。文化財保護については、59 市町村で考え方がバラバラであるのが現状です。これは地域社会にも協力を呼びかける必要があります。もっと大人たちに、文化財保護の目指すべきところを訴えていく必要があると思います。

最後に、県政世論調査で気になったのが、9 ページの福島県の教育に対する評価について、30 ～ 40 %の人が「わからない」と回答していることです。これは、わからないのか又は興味がないからだと解釈すると、自分の子どもや未来のことを考えなければならない大人が、このような態度では問題ではないかと思いました。

本日の皆さんの御意見は本当に勉強になり、色々なことを考えさせられました。ありがとうございました。以上です。

内田座長

ありがとうございました。確かに社会に協力を呼びかけていくことと、調査結果の3割といのは大きいかと、お話を聞いて思いました。

他に御意見はございませんでしょうか。伏見委員、お願いいたします。

伏見委員

今のお話を聞いていて、私も9 ページが気になっていて、県総合教育計画は資料4 に肉付けをして、今後詳しくなっていくと思うのですが、20代、30代、40代の色々な人たちに、もっと教育に関心を持ってもらいたい。しかし、教育関係者以外だと、「非認知能力」などは分からないこともあるので、広く県民に分かるものが良いと思います。

小野委員がSNSのお話をされましたが、毎年の調査結果を見ると、学校だけでは無理という意識になっています。働き改革にしても、現場で一生懸命やっていることを、県民の方に知ってもらいたいと思い、校長会で新聞に意見を出させていたところなんです。教育のことを、もっと色々な立場の人に分かってもらえるような手立てを取りながら、教育計画ができていけばいいと思っています。

先程から、自分のことを自分の言葉で伝えることができないとのお話がでていましたが、今の子どもたちはLINE やメールを使うため、短く端的に自分のことは言えるけれども、長い言葉で文章に表現する力が弱くなっていくと思います。小学校では読書を行うことで、自分のことを自分の言葉で言える力をつけさせたいと考えていますが、中学校では読書量が減少してる調査結果が出ていますし、言葉の重要性について、幼小中高、卒業するまで一貫して育てていければいいと思っています。

内田座長

貴重な御指摘ありがとうございました。そういった辺りも盛り込んでいくことになると思います。

他にございますでしょうか。小檜山委員、お願いいたします。

小檜山委員

今言葉を育てるとありましたが、私も聴覚支援学校で言葉を育てることが大切になっていて、今はコロナ禍でマスクをしているため、表情が読み取れない状態にな

<p>内田座長</p>	<p>っています。コロナ対策ではありませんが、言葉を育てる中で、マスク着用にはまだ解決策はないのですが、大人は目線などで言葉が分かるが、子どもは分からないので、幼児教育や小学部低学年でこのまま進むと言葉が育たないと言われていて、シールドで対応するなど、新たな課題が生じています。伏見委員のお話を聞いて、気になったのでお話しいたしました。</p>
<p>小野委員</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>他に何かございませんか。小野委員、お願いします。</p> <p>計画の本筋とは違う話になると思いますが、黒川委員をはじめ社会へのメッセージを出していくべきだとの話はそのとおりだと思うが、県総合教育計画の名前では読んでもらえるとは限らず、何か出したよねという話で終わってしまう。本当に社会に届くメッセージとしては、一風変わったものを出してもいいだろうと私個人は思っています。別に奇天烈なものを作れということではなく、言葉の表現もよくまとめてもらっていて、行政としては良い文章に育っていると思いますが、それでは響かないので、響かせるための努力を皆さん頑張ってもらいたいと思います。50代の課長が発案した言葉よりは、20代の若い職員や明日のワークショップで考えた高校生の言葉などがいいかもしれないので、思い切ってタイトルだけでもいいので、地域や社会に響くものにしてほしいと思います。以上、感想でした。</p>
<p>内田座長</p>	<p>ありがとうございます。正にそのとおりだと思います。</p> <p>他にございますでしょうか。青砥委員、お願いします。</p>
<p>青砥委員</p>	<p>社会にどう計画を伝えていくかという話が続いていますが、文章として県のホームページに掲載していますとするのか、広く県民に伝えていくのか、我々が考えていくべき問いになってくると思います。色々なパターン、アイデアがあった方が良く個人的には思っています。</p> <p>私は、ふたば未来学園にも今年度関わっていますが、計画とは違っていますが、ふたば未来学園では人材育成要件、ルーブリックを、学校運営、カリキュラム・マネジメントの中で活用しています。10の資質・能力・態度がまとめられていて、例えば知識理解、思考想像力、寛容さなどが掲げられていて、1つ1つの授業や課外がどこに紐付いてつくっていくのか、生徒自身がそれを見て、自分がどのレベルにいて、次にどこを目指すのか自己評価することができ、様々な場面で何度も見返すことがあるのが良い点だと思っています。色々な学校種、規模、地域がありますが、この計画の一部でも、何度も見返すものになると良いと思っています。少しそれますが、私がルーブリックで好きなのは、寛容さと他者との協働力の項目で、寛容さのレベル5は「考えの違う意見や存在を、自分や社会をより良くしていくものとして考えて受け入れられる」と書かれていて、ルーブリックをつくられた当時の先生方の話を聞いた訳ではないので推測になりますが、双葉郡や福島県は震災で避難するとかしないとか、今も処理水を放出するのとかしないのかの議論になったり、県内様々な意見が行き交っていますが、そういった経験があるからこそ、そういった言葉がルーブリックに載っているのではないかと勝手に推測しています。</p> <p>真に議論してつくられた言葉は、つくられた当時を越えて、何度も未来の生徒、保護者、地域の方に参照されるものとなっていくと思うので、最後の形の議論がこの後できればいいかと、皆さんの話を伺って感じておりました。以上です。</p>
<p>内田座長</p>	<p>ありがとうございます。御指摘のように発信についても、今後議論できればと思います。</p>

	<p>そろそろお時間となりますので、協議事項（3）その他に移ります。</p> <p>今後目指すべき教育の姿、施策について御議論いただきましたが、全体を通じてでもいいですし、それ以外でも結構ですので、委員の皆様から何か御意見などございませんか。</p> <p style="text-align: center;">（意見なし）</p> <p>よろしいでしょうか。それでは無いようですので、本日の用意させていただいた協議事項は、ここまでにさせていただきたいと思えます。</p> <p>次に、事務局から連絡事項をお願いします。</p> <p>今後の予定についてですが、次回の第5回懇談会につきましては、年明けの開催を予定しております、現在調整をいたしておりますので、後日改めて御連絡させていただきます。</p> <p>また、後日お気づきになられた内容があれば、1月12日までにメール等で御質問や御意見をいただければと思えます。</p> <p>議事録につきましても、作成後、御確認をお願いいたしますので、よろしく願いいたします。以上でございます。</p>
教育総務課長	<p>ありがとうございます。今後の予定などについて説明がありましたが、皆様から何か質問などございませんか。</p> <p style="text-align: center;">（質問なし）</p> <p>よろしいでしょうか。他に御意見等無ければ、以上をもちまして、本日の審議を完了させていただきたいと思えます。御協力いただきまして誠にありがとうございました。</p>
内田座長	<p>ありがとうございます。今後の予定などについて説明がありましたが、皆様から何か質問などございませんか。</p> <p style="text-align: center;">（質問なし）</p> <p>よろしいでしょうか。他に御意見等無ければ、以上をもちまして、本日の審議を完了させていただきたいと思えます。御協力いただきまして誠にありがとうございました。</p>
事務局	<p style="text-align: center;">－閉 会－</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>以上をもちまして、第4回第7次福島県総合教育計画策定に関する懇談会を終了いたします。本日も誠にありがとうございました。</p> <p>福島は、まだ路面が凍結しておりますので、お帰りの際はお気を付けてください。</p>